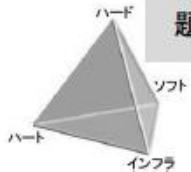


..... 資 料

最終案

※日本の実情に合った自転車遊びの模索で「自転車さんぽ◆◆THT26」を探り当て、エントリー層の入口として、主催の大小や目的を選ばない万能ソフトをほぼ確立。但し、どこでも実施できる内容は地味なことが必要条件でもあり、それを理解した上で、ご協力をお願いできる運営チーム数の拡大が、今後の課題であり、Ver. 2・6の主題です。



※災害風景と自然美は紙一重です。主催者にとって、日本の道は困難で危険な箇所が少なくありません。それでも走り出したら自己責任は不变です。ファストラン認定システムのナショナルブルベの確立と、その先にある自転車国道構想に向けた実証実験です。

※地産地消型(地元と都会のMTBクラブの交流)と奥座敷型(ショップやメーカーと地元行政の協力)の融合を通じて、日本の山道利用の再考(管理者へのアピール)をします。

